

# 全国理美容開業ランキング レポート ver7

～2025年10月～12月・過去3年間比較～

<調査方法>  
行政からの開業情報をもとに、  
Review独自のクレンジングをおこなったデータより算出



# Contents

株式会社Reviewは「人」と「IT」のチカラを組み合わせ、全国の店舗データおよび法人データを独自で、収集・整備・提供しているデータプロバイダーです。

日々データを更新、圧倒的な網羅性とリアルタイム性がございます。  
そんな弊社ならではの、全国の理美容店に関する調査結果を発表いたします。

## 理容所・美容所開業ランキング 2025年10月～12月

---

全国理美容開業数ランキングTOP5	…P4
全国理美容開業数ランキング(合計)	…P5
【理容所】月別 全国理美容開業数ランキング	…P6
【美容所】月別 全国理美容開業数ランキング	…P7
年末にかけて減少する開業数	…P8～9
繁忙期の12月に、なぜ開業数が少ないのか	…P10～11

## 理容所・美容所 2023年～2025年 10月～12月 過去3年開業数比較


---

全国理美容開業数ランキング/2023年～2025年	…P13
【理・美容所別】全国理美容開業数ランキング/2023年～2025年	…P14
2025年の理美容開業1,000件減は何が起きたのか — 年間減少の9割超を占めた「春の開業不発」を読み解く —	…P15
【理美容】2025年月別年間開業数比較	…P16
年間1,000件減の正体は「第1四半期の急減」だった	…P17
なぜ第1四半期だけ大幅に減少したのか	…P18～19
4月以降の回復が意味する業界動向	…P20～21
【コラム】ヘアセット専門サロン市場の現在地	…P22～23

## 全国理美容開業ランキング レポート ver7 まとめ

---

2025年は「春の失速」と「年後半の回復」が特徴に	…P25
開業のかたちは変わりながら、業界は次の成長局面へ	…P26



理容所・美容所開業ランキング  
2025年10月～12月

# 全国理美容開業数ランキングTOP5



年末の開業動向から見えた、2025年理美容市場の転換点とは—

2025年10月～12月の理美容所開業数は前年同期を上回り、年末にかけて回復の動きが見られました。一方で、通年では前年から20%近く減少しており、開業数変化の時期に偏りがあったことも明らかになっています。

本レポートでは、2025年10月～12月の全国開業データを中心に、過去3年の通年データとも比較しながら、理美容業界の現在地と、これからの開業市場の変化を読み解きます。

まずは、2025年10月～12月の全国理美容店開業数ランキングを発表いたします。開業数合計トップ5には、以下の都道府県がランクインしています。



**1位 東京都(187件)**  
多様な業態やコンセプトのサロン需要が高く、新規開業が活発な状況が続いている。



**2位 大阪府(89件)**  
大阪市を中心とした都市部での需要に加え、インバウンド需要の回復や再開の進展を背景に、新たな理美容店舗の開設が堅調に推移。



**3位 神奈川県(76件)**  
住宅地と商業地のバランスが取れた市場環境が、新規開業を後押ししている。



**4位 愛知県(70件)**  
中心部の安定した集客力に加え、郊外エリアにおける美容需要も根強く、継続的な開業が見られる。



**5位 埼玉県(57件)**  
ベッドタウンとして人口増加が続くエリアも多く、地域密着型サロンへの需要を背景に、新規開業数を伸ばしている。

## 全国理美容開業数ランキング(合計)

2025年10月～12月の全国の理美容開業数ランキングは以下のような結果となりました。

2025年10月～12月 全国開業件数 **1,168件**

理美容 / 2025年10月～12月			
都道府県	開業数		
全国	1168	24 石川県	13
1 東京都	187	25 岐阜県	12
2 大阪府	89	26 山口県	12
3 神奈川県	76	27 宮崎県	12
4 愛知県	70	28 愛媛県	11
5 埼玉県	57	29 岩手県	10
6 福岡県	54	30 滋賀県	10
7 兵庫県	48	31 佐賀県	10
8 静岡県	41	32 長崎県	10
9 千葉県	40	33 群馬県	9
10 広島県	36	34 富山県	9
11 北海道	35	35 大分県	9
12 長野県	27	36 青森県	8
13 宮城県	26	37 奈良県	8
14 沖縄県	26	38 徳島県	8
15 新潟県	21	39 鹿児島県	8
16 三重県	20	40 山梨県	7
17 茨城県	19	41 福井県	6
18 香川県	19	42 和歌山県	6
19 福島県	17	43 山形県	5
20 栃木県	17	44 鳥取県	5
21 京都府	16	45 島根県	5
22 岡山県	14	46 秋田県	3
23 熊本県	14	47 高知県	3

## 【理容所】月別 全国理美容開業数ランキング

次に、理容所における2025年10月～12月の、月別の全国開業数を比較してみます。  
結果は以下の通りです。

理容所 / 2025年10月～12月				
都道府県	3か月合計	2025年10月	2025年11月	2025年12月
全国	123	44	43	36
1 東京都	21	5	5	11
2 北海道	9	4	3	2
3 大阪府	9	1	3	5
4 神奈川県	6	1	3	2
5 沖縄県	6	2	2	2
6 愛知県	5	3	1	1
7 宮城県	4	2	2	0
8 埼玉県	4	3	1	0
9 千葉県	4	2	1	1
10 新潟県	4	1	3	0
11 兵庫県	4	1	2	1
12 広島県	4	1	3	0
13 茨城県	3	0	1	2
14 長野県	3	2	1	0
15 福岡県	3	0	2	1
16 宮崎県	3	2	1	0
17 福島県	2	1	1	0
18 福井県	2	1	1	0
19 滋賀県	2	1	0	1
20 愛媛県	2	0	1	1
21 高知県	2	1	0	1
22 佐賀県	2	0	1	1
23 熊本県	2	2	0	0
24 青森県	1	0	1	0
25 岩手県	1	0	0	1
26 栃木県	1	0	1	0
27 群馬県	1	0	0	1
28 富山県	1	0	0	1
29 石川県	1	1	0	0
30 岐阜県	1	1	0	0
31 静岡県	1	0	1	0
32 三重県	1	0	1	0
33 京都府	1	1	0	0
34 鳥取県	1	1	0	0
35 岡山県	1	1	0	0
36 山口県	1	1	0	0
37 香川県	1	0	0	1
38 長崎県	1	1	0	0
39 大分県	1	0	1	0
40 鹿児島県	1	1	0	0
41 秋田県	0	0	0	0
42 山形県	0	0	0	0
43 山梨県	0	0	0	0
44 奈良県	0	0	0	0
45 和歌山県	0	0	0	0
46 島根県	0	0	0	0
47 徳島県	0	0	0	0

## 【美容所】月別 全国理美容開業数ランキング

さらに、美容所における2025年10月～12月の、月別の全国開業数を比較してみます。  
結果は以下の通りです。

美容所 / 2025年10月～12月					
	都道府県	3か月合計	2025年10月	2025年11月	2025年12月
	全国	1045	418	347	280
1	東京都	166	66	62	38
2	大阪府	80	35	29	16
3	神奈川県	70	30	24	16
4	愛知県	65	23	26	16
5	埼玉県	53	26	10	17
6	福岡県	51	10	27	14
7	兵庫県	44	16	18	10
8	静岡県	40	21	11	8
9	千葉県	36	14	15	7
10	広島県	32	12	10	10
11	北海道	26	8	12	6
12	長野県	24	9	5	10
13	宮城県	22	7	8	7
14	沖縄県	20	9	7	4
15	三重県	19	5	4	10
16	香川県	18	8	4	6
17	新潟県	17	9	2	6
18	茨城県	16	9	3	4
19	栃木県	16	7	4	5
20	福島県	15	4	4	7
21	京都府	15	6	4	5
22	岡山県	13	6	4	3
23	石川県	12	5	1	6
24	熊本県	12	2	5	5
25	岐阜県	11	4	4	3
26	山口県	11	6	3	2
27	岩手県	9	1	5	3
28	愛媛県	9	2	4	3
29	長崎県	9	4	1	4
30	宮崎県	9	3	2	4
31	群馬県	8	2	4	2
32	富山県	8	6	2	0
33	滋賀県	8	4	1	3
34	奈良県	8	3	3	2
35	徳島県	8	3	0	5
36	佐賀県	8	5	2	1
37	大分県	8	5	1	2
38	青森県	7	3	2	2
39	山梨県	7	3	2	2
40	鹿児島県	7	4	3	0
41	和歌山県	6	2	2	2
42	山形県	5	2	3	0
43	島根県	5	4	1	0
44	福井県	4	1	2	1
45	鳥取県	4	3	0	1
46	秋田県	3	1	0	2
47	高知県	1	0	1	0

# 年末にかけて減少する開業数

## 理美容所の新規開設は10月が最多、12月に向けて減少する傾向

2025年10月～12月の理美容所新規開設件数をみると、10月が最も多く、11月、12月と月を追うごとに減少する傾向が見られました。

年末は理美容サービスの需要が高まる時期であるにもかかわらず、新規開設件数は減少しています。この動きの背景には、需要動向よりも、開業に伴う行政手続きや年末特有の営業環境が影響している可能性があります。

そこで、公的機関や業界資料をもとに、理美容所の開設時期に影響を与える要因を整理しました。

## 1. 年末は手続き日程が限られる

理美容所を開設するには、保健所への事前相談や開設届の提出、施設検査などを経て営業許可を受ける必要があります。

多くの自治体では、営業開始予定日の1～3週間前までに届出を行い、施設検査を受けた後に営業開始となるため、一定の準備期間が必要です。

一方で、保健所や自治体窓口は年末年始に閉庁期間が設けられます。一般的には12月29日から1月3日まで休業となるため、12月後半に予定されていた開業案件の一部は、検査や手続きの都合で翌年1月へずれ込む可能性があります。

10月はこうした日程上の制約が少なく、比較的余裕をもって開業準備を進められる時期であることから、新規開設が集中しやすいと考えられます。

## 2. 12月需要と開業の難しさ

経済産業省の家計調査分析によると、理美容サービスへの支出は例年12月に増加する傾向があります。そのため、12月の新規開設件数減少を「需要不足」で説明することはできません。

むしろ年末は既存店舗にとって最も忙しい繁忙期であり、開業準備やスタッフ教育、集客活動を並行して行うことが難しくなる時期でもあります。

特に複数店舗を運営する事業者の場合、既存店舗の営業対応を優先することで、新店舗の開業タイミングを年明け以降に調整するケースも考えられます。

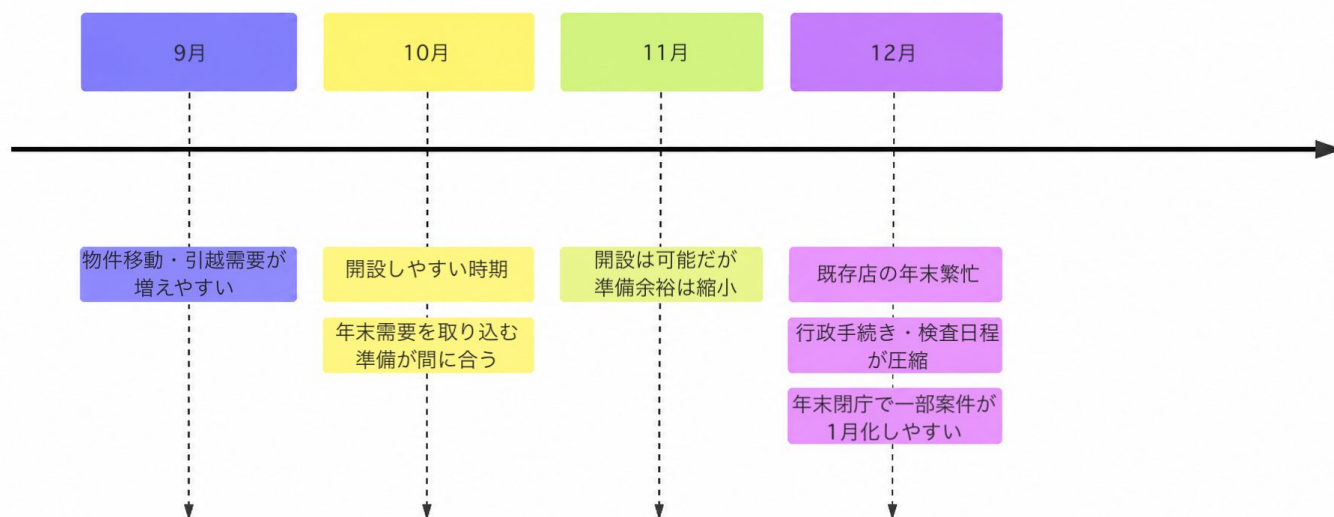
## 年末にかけて減少する開業数

### 3. 人材・税制要因は限定的

理美容専門学校の多くは4月入学・3月卒業を基本としており、人材供給のピークは春にあります。そのため、10月に開業件数が増える要因を人材輩出サイクルだけで説明することは難しいと考えられます。

また、個人事業主の税務制度においても、10月開業を特別に優遇する制度は確認されておらず、税制面が開業時期を大きく左右している可能性は低いとみられます。

#### 【秋～年末】理美容業界の動き



以上の結果から、理美容所の新規開設が10月に多く、12月に向けて減少する背景には、消費需要の変化よりも「開業実務のしやすさ」が影響していると考えられます。

10月は行政手続きの日程に余裕があり、年末需要の取り込みも見据えやすい時期です。一方、12月は既存店舗の繁忙化に加え、保健所の検査日程や年末年始の閉庁期間が重なることで、開業スケジュールを組みにくくなります。

その結果、新規開設が年明け以降へ先送りされやすくなり、10月をピークとして12月に向けて開設件数が減少している可能性が高いと考えられます。

## 繁忙期の12月に、なぜ開業数が少ないのか

2025年10月～12月の理美容所開設数は、10月をピークに11月、12月と減少しました。一方で、理美容サービスの需要は年末に向けて高まることが知られています。

一般的には「需要が高ければ出店も増える」と考えられますが、今回のデータではその逆の動きが見られました。そこで、なぜ需要が高い12月に新規開設が減少するのかについて、公的データや業界調査をもとに再検証しました。

### 1. 既存店舗の運営が優先されやすい

理美容業界は継続利用によって成り立つ側面が強い業界です。

ホットペッパービューティーアカデミーの調査によると、女性の68.0%、男性の65.0%が「基本的に同じサロンを利用し続けている」と回答しています。また、美容師とのコミュニケーションや施術品質が再来店意向に大きく影響することも確認されています。

こうした業態特性を踏まえると、**年末の繁忙期は新店舗の立ち上げよりも、既存顧客への対応やサービス品質の維持を優先しやすい時期**と考えられます。

特に個人経営や小規模事業者の割合が高い理美容業界では、**限られた人員の中で既存店舗と新店舗を同時に運営する負担が大きくなりやすい**ことも影響している可能性があります。

### 2. 人材確保の難しさも影響

理美容業界では慢性的な人材不足が続いています。

厚生労働省の職業情報提供サイトによると、2024年度の有効求人倍率は美容師で5.73倍、理容師では16.24倍となっており、採用難の状況が続いています。

また、美容師は離職率も比較的高く、リクルートの調査では初職を辞めた後も美容師として働き続ける人は55.4%にとどまっています。

新店舗を開業するためには、店舗設備だけでなく安定したスタッフ体制も必要になります。年末の繁忙期は既存店舗でも人手が不足しやすいため、新店立ち上げに必要な人員確保がさらに難しくなる可能性があります。

## 繁忙期の12月に、なぜ開業数が少ないのか

### 3. 新店舗はすぐに顧客を獲得できるわけではない

需要が高い時期であっても、新店舗がすぐに顧客を獲得できるとは限りません。

美容室利用者の多くは継続的に同じ店舗を利用しており、新しい店舗を探す際も、予約サイトや口コミ、知人からの紹介などを重視しています。

ホットペッパービューティーアカデミーの調査では、現在利用している美容室を知ったきっかけとして、「予約・口コミサイト」と回答した人が最も多く、次いで「友人・知人からの紹介」が続いています。

そのため、新店舗が12月に開業したとしても、口コミの蓄積や認知拡大、予約サイト上での露出強化などに一定の時間が必要です。年末需要があるからといって、開店直後から十分な集客を実現できるとは限りません。

今回の検証から、12月の新規開設減少は需要不足によるものではなく、**開業実務上の制約によって説明するのが最も妥当である**ことが分かりました。

年末は理美容サービス需要が高まる一方で、既存店舗の運営負荷、人材不足、集客準備の難しさ、行政手続きの日程制約が同時に発生します。

その結果、事業者は12月の開業を避け、比較的準備を進めやすい10月や年明け以降へ開業時期を調整している可能性が高いと考えられます。





理容所・美容所  
2023年～2025年 10月～12月  
過去3年 年間開業数比較



## 全国理美容開業数ランキング/2023年～2025年

次に、2023年～2025年の3年間における、10月～12月の全国の理美容開業数を比較してみました。以下のような結果となりました。

理美容 / 10月～12月開業数					
都道府県	3年間合計	2023年	2024年	2025年	
全国	3215	974	1073	1168	
1 東京都	530	171	172	187	
2 大阪府	283	102	92	89	
3 神奈川県	180	51	53	76	
4 福岡県	157	60	43	54	
5 愛知県	150	19	61	70	
6 埼玉県	148	29	62	57	
7 千葉県	132	58	34	40	
8 兵庫県	132	44	40	48	
9 静岡県	105	34	30	41	
10 北海道	102	32	35	35	
11 広島県	79	18	25	36	
12 京都府	67	23	28	16	
13 茨城県	62	21	22	19	
14 宮城県	60	16	18	26	
15 栃木県	58	16	25	17	
16 沖縄県	58	14	18	26	
17 長野県	51	7	17	27	
18 新潟県	50	14	15	21	
19 三重県	50	14	16	20	
20 福島県	48	15	16	17	
21 石川県	47	16	18	13	
22 岐阜県	40	14	14	12	
23 鹿児島県	39	13	18	8	
24 香川県	37	7	11	19	
25 滋賀県	34	15	9	10	
26 山口県	34	9	13	12	
27 愛媛県	34	9	14	11	
28 熊本県	34	12	8	14	
29 群馬県	33	10	14	9	
30 岡山県	30	6	10	14	
31 宮崎県	29	7	10	12	
32 奈良県	28	10	10	8	
33 岩手県	27	6	11	10	
34 徳島県	27	11	8	8	
35 長崎県	27	9	8	10	
36 青森県	26	12	6	8	
37 山形県	22	8	9	5	
38 大分県	21	5	7	9	
39 富山県	19	6	4	9	
40 佐賀県	19	4	5	10	
41 秋田県	18	6	9	3	
42 福井県	18	6	6	6	
43 山梨県	18	3	8	7	
44 和歌山県	16	5	5	6	
45 鳥取県	13	3	5	5	
46 島根県	12	3	4	5	
47 高知県	11	1	7	3	

※3年間の開業数合計が多い都道府県順に表示しております。

## 【理・美容所別】全国理美容開業数ランキング/2023年～2025年

次に、2023年～2025年の3年間に於ける、10月～12月の全国の理容所・美容所別の開業数を比較してみました。以下のような結果となりました。

理容所 / 10月～12月開業数				
都道府県	3年間合計	2023年	2024年	2025年
全国	303	81	99	123
1 東京都	45	11	13	21
2 大阪府	25	7	9	9
3 兵庫県	17	8	5	4
4 北海道	14	1	4	9
5 愛知県	13	4	4	5
6 福岡県	12	6	3	3
7 茨城県	11	2	6	3
8 埼玉県	11	2	5	4
9 千葉県	11	3	4	4
10 沖縄県	11	3	2	6
11 宮城県	10	3	3	4
12 神奈川県	10	2	2	6
13 静岡県	8	2	5	1
14 岩手県	6	1	4	1
15 新潟県	6	2	0	4
16 福島県	5	2	1	2
17 栃木県	5	2	2	1
18 滋賀県	5	2	1	2
19 京都府	5	1	3	1
20 広島県	5	0	1	4
21 愛媛県	5	1	2	2
22 宮崎県	5	2	0	3
23 鹿児島県	5	2	2	1
24 長野県	4	0	1	3
25 岡山県	4	1	2	1
26 青森県	3	0	2	1
27 山形県	3	0	3	0
28 石川県	3	1	1	1
29 福井県	3	1	0	2
30 山口県	3	1	1	1
31 高知県	3	1	0	2
32 長崎県	3	1	1	1
33 大分県	3	1	1	1
34 群馬県	2	0	1	1
35 岐阜県	2	0	1	1
36 和歌山県	2	1	1	0
37 鳥取県	2	0	1	1
38 徳島県	2	2	0	0
39 香川県	2	0	1	1
40 佐賀県	2	0	0	2
41 熊本県	2	0	0	2
42 秋田県	1	0	1	0
43 富山県	1	0	0	1
44 三重県	1	0	0	1
45 奈良県	1	1	0	0
46 島根県	1	1	0	0
47 山梨県	0	0	0	0

美容所 / 10月～12月開業数				
都道府県	3年間合計	2023年	2024年	2025年
全国	2912	893	974	1045
1 東京都	485	160	159	166
2 大阪府	258	95	83	80
3 神奈川県	170	49	51	70
4 福岡県	145	54	40	51
5 埼玉県	137	27	57	53
6 愛知県	137	15	57	65
7 千葉県	121	55	30	36
8 兵庫県	115	36	35	44
9 静岡県	97	32	25	40
10 北海道	88	31	31	26
11 広島県	74	18	24	32
12 京都府	62	22	25	15
13 栃木県	53	14	23	16
14 茨城県	51	19	16	16
15 宮城県	50	13	15	22
16 三重県	49	14	16	19
17 長野県	47	7	16	24
18 沖縄県	47	11	16	20
19 新潟県	44	12	15	17
20 石川県	44	15	17	12
21 福島県	43	13	15	15
22 岐阜県	38	14	13	11
23 香川県	35	7	10	18
24 鹿児島県	34	11	16	7
25 熊本県	32	12	8	12
26 群馬県	31	10	13	8
27 山口県	31	8	12	11
28 滋賀県	29	13	8	8
29 愛媛県	29	8	12	9
30 奈良県	27	9	10	8
31 岡山県	26	5	8	13
32 徳島県	25	9	8	8
33 長崎県	24	8	7	9
34 宮崎県	24	5	10	9
35 青森県	23	12	4	7
36 岩手県	21	5	7	9
37 山形県	19	8	6	5
38 富山県	18	6	4	8
39 山梨県	18	3	8	7
40 大分県	18	4	6	8
41 秋田県	17	6	8	3
42 佐賀県	17	4	5	8
43 福井県	15	5	6	4
44 和歌山県	14	4	4	6
45 鳥取県	11	3	4	4
46 島根県	11	2	4	5
47 高知県	8	0	7	1

※3年間の開業数合計が多い都道府県順に表示しております。

## 2025年の理美容開業1,000件減は何が起きたのか — 年間減少の9割超を占めた「春の開業不発」を読み解く —

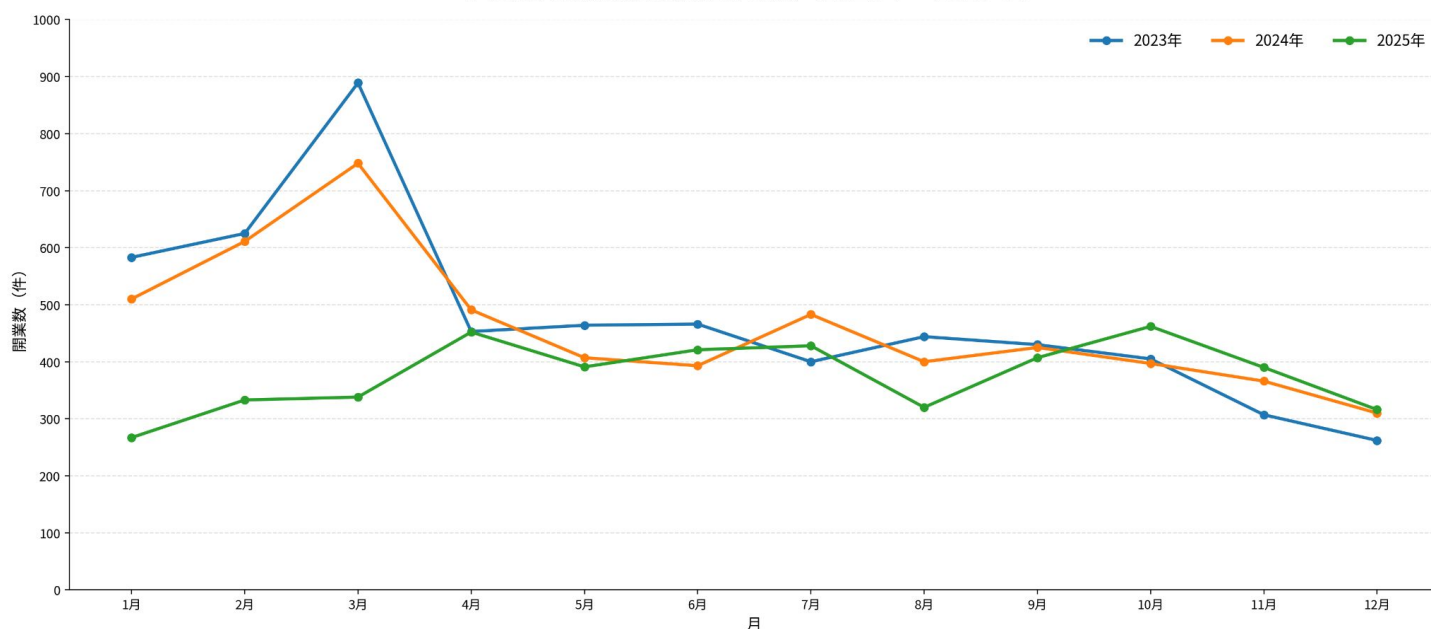
下記のグラフと表は、2023～2025年の過去3年間における、月別の理美容所開業数の推移を示したものです。

2025年の全国理美容開業件数は4,525件となり、2024年の5,541件から**1,016件減少**しました。数字だけを見ると、市場全体が急速に縮小したようにも見えます。しかし、月別データを詳しく分析すると、減少の実態は**年間を通じた低迷ではありません**でした。

2025年の減少分**1,016件のうち931件は1～3月に集中**しており、年間減少の91.6%をこの3か月で説明できます。一方で、4～12月は2024年とほぼ同水準で推移し、10～12月に限れば前年を上回っています。

2025年に起きたのは「需要消失による市場縮小」ではなく、本来もっとも開業が集中する【春のピークが立ち上がらなかった現象】でした。本章では、2025年の開業減少を「春の開業不発」という視点から検証し、その背景を整理します。

理美容所開業数 月別推移比較 (2023年～2025年)



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2023年	583	625	889	453	464	466	400	444	430	405	307	262	5728
2024年	510	611	748	491	407	393	483	400	425	397	366	310	5541
2025年	267	333	338	452	391	421	428	320	407	462	390	316	4525

## 【理美容】2025年月別年間開業数比較

次に、2025年の年間の、月別かつ都道府県別の開業数を比較してみました。  
以下のような結果となりました。

		2025年												
		合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	全国	合計	267	333	338	452	391	421	428	320	407	462	390	316
1	東京都	662	40	48	39	58	55	49	57	65	64	71	67	49
2	大阪府	397	22	38	24	37	27	44	35	28	53	36	32	21
3	神奈川県	278	17	20	27	24	19	23	27	25	20	31	27	18
4	福岡県	264	12	14	27	37	18	29	21	23	29	10	29	15
5	愛知県	245	17	25	34	20	21	18	15	8	17	26	27	17
6	埼玉県	233	18	20	21	22	21	28	21	17	8	29	11	17
7	兵庫県	194	15	12	20	20	17	19	16	6	21	17	20	11
8	千葉県	185	13	12	14	17	23	16	14	19	17	16	16	8
9	北海道	168	9	10	13	25	20	13	19	12	12	12	15	8
10	静岡県	132	10	8	8	20	11	10	8	8	8	21	12	8
11	広島県	108	5	7	7	10	12	8	10	6	7	13	13	10
12	宮城県	96	4	5	10	9	7	12	8	8	7	9	10	7
13	長野県	93	6	13	5	7	11	7	7	1	9	11	6	10
14	茨城県	85	6	5	3	11	9	11	5	0	16	9	4	6
15	京都府	76	6	4	5	8	15	10	5	4	3	7	4	5
16	沖縄県	74	5	7	6	6	2	3	10	5	4	11	9	6
17	岐阜県	68	6	4	7	4	3	7	12	6	7	5	4	3
18	新潟県	65	4	3	3	5	6	4	7	3	9	10	5	6
19	三重県	64	4	3	6	4	3	7	9	4	4	5	5	10
20	栃木県	62	3	5	3	4	6	4	9	3	8	7	5	5
21	福島県	58	2	4	5	5	7	6	7	4	1	5	5	7
22	群馬県	53	1	5	3	4	6	5	8	6	6	2	4	3
23	大分県	50	1	0	3	9	6	6	7	2	7	5	2	2
24	鹿児島県	50	4	4	1	4	7	7	5	5	5	5	3	0
25	香川県	49	1	1	3	3	5	4	6	2	5	8	4	7
26	山口県	48	2	1	0	6	7	10	3	4	3	7	3	2
27	岡山県	47	6	5	3	4	1	3	4	3	4	7	4	3
28	滋賀県	44	3	4	3	6	4	5	4	3	2	5	1	4
29	愛媛県	43	0	5	7	2	3	4	6	1	4	2	5	4
30	長崎県	43	1	1	2	3	4	6	10	3	3	5	1	4
31	石川県	41	4	3	1	4	0	5	7	3	1	6	1	6
32	熊本県	40	1	2	0	4	3	2	7	3	4	4	5	5
33	奈良県	38	1	2	0	4	4	4	4	6	5	3	3	2
34	山形県	36	2	4	1	5	3	2	4	3	7	2	3	0
35	宮崎県	35	1	3	2	3	3	2	5	0	4	5	3	4
36	徳島県	32	2	2	6	1	0	5	3	3	2	3	0	5
37	和歌山県	30	0	2	0	6	4	1	4	3	4	2	2	2
38	佐賀県	29	1	3	3	3	1	0	3	3	2	5	3	2
39	富山県	27	5	2	1	4	0	3	1	1	1	6	2	1
40	山梨県	27	0	3	1	6	0	3	1	2	4	3	2	2
41	青森県	26	1	1	3	3	2	2	2	3	1	3	3	2
42	岩手県	26	0	1	0	4	2	5	2	1	1	1	5	4
43	秋田県	26	0	2	4	3	2	1	6	1	4	1	0	2
44	鳥取県	22	1	4	0	2	5	0	1	3	1	4	0	1
45	島根県	21	1	1	2	6	1	2	1	0	2	4	1	0
46	福井県	19	2	1	0	0	4	3	1	1	1	2	3	1
47	高知県	16	2	4	2	0	1	3	1	0	0	1	1	1

※年間の開業数合計が多い都道府県順に表示しております。

## 年間1,000件減の正体は「第1四半期の急減」だった

まず確認すべき事実は、2025年の減少が年間を通じて均等に発生したわけではないという点です。

四半期別比較			
区分	2025年	2024年	差分
1Q (1～3月)	938件	1,869件	▲931件
2Q～4Q (4～12月)	3,587件	3,672件	▲85件
年間合計	4,525件	5,541件	▲1,016件

2025年の理美容開業件数は4,525件となり、2024年の5,541件から1,016件減少しました。

しかし、この減少は年間を通じて均等に発生したものではありません。実際に減少の大部分は1～3月に集中しており、2025年第1四半期は938件と、2024年第1四半期の1,869件を931件下回りました。これは年間減少数の91.6%に相当し、**2025年の開業減少のほとんどが第1四半期だけで説明できることを示しています。**

一方で、4月以降の動向を見ると状況は大きく異なります。2025年第2四半期～第4四半期の開業件数は3,587件で、**2024年同期との差は85件にとどまりました。**さらに2025年Q4(10～12月)は1,168件となり、**2024年同期を95件、2023年同期を194件上回っています。**つまり、**2025年は年間を通じて開業が低迷した年ではなく、本来もっとも開業が集中する春のピークが大きく失速した年**と捉えるのが適切です。

このことから、2025年の開業減少を読み解くうえで重要なのは、「なぜ年間で1,000件減ったのか」ではなく、「**なぜ第1四半期だけが大きく落ち込んだのか**」という視点です。

以降では、その背景について詳しく見ていきます。



## なぜ第1四半期だけ大幅に減少したのか

### 【分析】 需要側に大きな異変は見られなかった

まず需要面から確認すると、2025年に理美容需要が急減したことを示す統計は見当たりませんでした。

リクルート「美容センサス2025年上期」によると、

**美容室市場規模:1兆3,884億円**  
**前年比:+2.5%**

となっており、市場はむしろ拡大傾向でした。

つまり、「需要が急減したため開業数も減った」とする仮説は成り立たないと考えるのが妥当です。



### 【仮説①】 資金調達環境の変化が2025年春の開業計画を直撃

一方で、開業側の環境は大きく変化していました。

コロナ禍では、日本政策金融公庫の特別貸付や信用保証制度の特例などにより、創業資金を調達しやすい環境が整えられていました。

しかし2024年にかけて特例措置は段階的に終了し、創業融資や信用保証制度は通常運用へ移行しました。さらに、

**日本銀行は2024年3月にマイナス金利政策を終了**  
**→ 2025年1月には政策金利を0.5%程度へ引き上げ**

ています。

理美容店の開業は、物件契約、内装工事、設備導入を含めると数か月前から準備が始まります。そのため、2025年第1四半期に開業予定だった案件は、実際には2024年後半から2025年初頭にかけて投資判断が行われていたと考えられます。

つまり、金利上昇と設備コスト上昇が重なり、第1四半期での開業が急減してしまった、と言えるのではないのでしょうか。

## なぜ第1四半期だけ大幅に減少したのか

### 【仮説②】 慢性的な人材不足

理美容業界では、人材確保が極めて困難な状況が続いています。

厚生労働省「職業情報提供サイト(job tag)」によると、令和6年度の全国有効求人倍率は、  
**理容師:16.24倍 美容師:5.73倍**  
でした。

リクルート「美容サロン就業実態調査2024」によると、初職を退職した美容師のうち、  
**最初の勤務先での就業期間が3年未満だった人は36.7%**でした。  
また、初職を**離職した後も美容師として働き続けている人は55.4%**にとどまっており、  
人材の定着と業界内への維持が大きな課題となっていることがうかがえます。

新規出店にはスタッフ確保が不可欠であり、こうした人材制約は春の大型出店シーズンほど強く表面化しやすいと考えられます。

### 【仮説③】 「店舗を持たない独立」の増加

もう一つの重要な変化が独立形態の変化です。  
近年は、

**面貸しサロン**  
**シェアサロン**  
**フリーランス美容師**

などの働き方が拡大しています。これらは実質的には独立に近いものの、  
新たな理美容所として開設届を提出しないケースも多くあります。

若手層を中心に、  
**「まずは雇用の中でキャリア形成」**  
**「店舗を持たない独立」**  
を選択する傾向が強まっている可能性があります。



特に例年開業が集中する第1四半期では、この構造変化が統計上の開業件数減少として表れやすかったと考えられます。

## 4月以降の回復が意味する業界動向

2025年の開業減少は第1四半期に集中した一方で、4月以降は開業件数が前年並みまで回復しています。ここでは、第1四半期以外で大幅な減少が見られなかった理由をデータから読み解きます。

### 【分析①】 需要基盤そのものは維持されていた

理美容業は継続利用型の業態です。  
ホットペッパービューティーアカデミー「美容センサス2025年上期」では、

「基本的に同じサロンを利用している」と回答した割合は  
女性:68.3%  
男性:65.0%

でした。

つまり、理美容需要は一時的な景気変動の影響を受けにくく、固定客と予約需要によって支えられる特徴があります。

そのため、春に開業できなかった案件が消滅したのではなく、後ろ倒しになった可能性が高いと考えられます。



### 【分析②】 実際に後半はほぼ前年並みまで回復している

2025年の4～7月と9～12月を合計すると、

2025年:3,267件  
2024年:3,272件

となり、  
差はわずか5件で、率にしても▲0.15%に過ぎません。

また2023年同期間(3,187件)と比較すると80件上回っています。

つまり8月を除けば、  
2025年後半はほぼ平年並みの開業水準に戻っていたこととなります。



## 4月以降の回復が意味する業界動向

### 【推考】小規模・低投資型への適応が進んだ可能性

年後半に開業件数が持ち直した背景には、事業者が開業環境の変化へ適応した可能性も考えられます。

近年は、面貸しやシェアサロンを活用した独立など、店舗を新設しない開業形態が広がりつつあります。

こうした小規模・低投資型の開業は、

**資金や人材の制約を受けやすい環境でも実行しやすく、春先に見送られた開業計画の一部が、年後半に実現した可能性**

があります。

なお、ホットペッパービューティーアカデミーやリクルートの調査でも、フリーランスや新しい就業形態の広がりが確認されており、独立形態そのものが変化していることがうかがえます。



2025年の理美容開業件数は前年比で1,016件減少しました。しかし、その実態は市場全体の縮小ではありませんでした。

年間減少の91.6%は第1四半期に集中しており、4～12月はほぼ前年並み、10～12月は前年を上回っています。

需要面では、美容室市場規模は前年比2.5%増、家計消費支出も実質0.9%増と堅調でした。一方で、金利上昇による資金調達環境の変化、人材不足と定着難、店舗を持たない独立形態への移行など、供給側の制約が重なっていました。

これらを総合すると、2025年の開業減少は、「市場が縮小した年」ではなく、「春の開業ピークに必要な資金・人材・準備が噛み合わなかった年」と整理するのが最も妥当です。

また、後半はほぼ前年並みに回復していることから、2026年以降の見通しを左右する最大のポイントも、引き続き「第1四半期の回復度合い」にあると言えるでしょう。

## 【コラム】ヘアセット専門サロン市場の現在地

### 「イベント美容インフラ」へ進化するニッチ市場



ヘアセット専門サロンは、美容業界の中でも独立した市場で、統計的に把握されていないニッチ業態です。公的統計はありませんが、美容業全体の動向や、婚礼・ライブ・卒業式などのイベント需要を重ねて見ることで、市場の変化を読み解くことは可能です。

コロナ禍では特に、婚礼やライブイベントの中止・縮小により大きな打撃を受けましたが、現在は「婚礼市場の回復」だけでは説明できない新たな需要構造へ移行しています。

ここでは、ヘアセット専門サロン市場の現在地を整理していきましょう。

### コロナ禍を経て需要構造が大きく変化

矢野経済研究所によると、美容業全体の市場規模は、2019年度の約2.1兆円から2020年度に約1.97兆円まで落ち込みましたが、その後は回復を続け、2024年度にはほぼコロナ前の水準まで戻っています。一方、ヘアセット専門サロンは婚礼やライブ、卒業式などイベント需要への依存度が高いため、美容業全体以上に影響を受けたと考えられます。

しかし、その回復は単純な「元通り」ではありません。婚礼は再開されたものの、披露宴は少人数化が進み、一組当たりの参列者需要は縮小しています。

その一方で、**ライブ・エンターテインメント市場は2024年にコロナ前を上回る規模まで拡大し、「推し活」やK-POP人気を背景としたイベント前のヘアセット需要が新たな市場を形成しています。**

つまり、ヘアセット専門サロンは婚礼中心の市場から、多様なイベント需要を取り込む市場へと変化しています。



写真出典:アトリエはるか公式サイト

最大手格の「アトリエはるか」は、全国に60店舗以上、所属アーティスト300名以上、年間利用者70万人以上を持ち、ヘアメイクだけでなく、ネイル、アイブロウ、着付け、レンタル、企業案件やブライダル派遣まで多岐にわたるサービスを重ねています。駅ナカ・駅チカで20分程度、2,000円台からという設計は、コロナ後の「短時間で済ませたい」「式典だけでなく通勤前・面接前にも使いたい」という需要にも合っています。

## 【コラム】ヘアセット専門サロン市場の現在地

### 市場を支えるのは「目的来店」

一般的な美容室が日常的なヘアケアを提供するのに対し、ヘアセット専門サロンは「**イベントのために来店する**」ことが**最大の特徴**です。

現在の主要な需要は、

- 結婚式・ブライダル
- ライブ・推し活
- 卒業式・成人式
- 花火大会・お祭り
- 夜職
- 駅ナカ・駅チカでの短時間利用

など、多様なオケージョンに広がっています。

価格帯も二極化が進んでおり、短時間・定型メニューでは1,000～2,500円程度、高付加価値のブライダルヘアメイクでは1万～2万円程度まで幅広く展開されています。現在は「安さ」と「専門性」の両方を武器にした事業モデルが共存している点が、この市場の特徴です。



### 今後の市場の注目点


市場全体としては、美容師数が増加する一方で人材不足は依然として深刻です。イベント日に需要が集中することや、SNS発信、接客力なども求められることから、ヘアセット専門サロンでは一般美容室以上に採用・定着が課題となっています。

また、全国一律に市場が広がっているわけではなく、店舗は東京・大阪をはじめとする都市部の駅周辺やライブ会場、婚礼施設、繁華街などに集中しています。地方では単独のヘアセット専門店よりも、着付けやメイク、レンタルなどを組み合わせた「複合型サービス」として展開されるケースが多く見られます。

### まとめ

美容業界でも特殊な業態である「ヘアセット専門サロン」。  
 コロナ前には都市型イベント需要に支えられた【高回転ニッチ】、  
 コロナ中は婚礼・宴会・ライブ・卒業式制約の直撃を受けた【高感応度ニッチ】、  
 コロナ後は「婚礼の小型化・ライブ需要の急回復・推し活/韓流/量産型・夜職・駅ナカ短時間需要」  
 の【複合市場へ再編されたニッチ】、と、この数年で大きな転換を経験しました。

婚礼需要の回復だけに依存する市場ではなく、複数のオケージョン需要を取り込み新たな成長局面へ移行しつつあります。

A classic barber chair with a black leather seat and chrome frame, set in a dimly lit barbershop. The chair is the central focus, with its adjustable backrest and armrests visible. The background shows a blurred barbershop interior with a mirror and a sink.

# 全国理美容開業ランキング レポート ver7 まとめ

## 2025年は「春の失速」と「年後半の回復」が特徴に

2025年の全国理美容所開業件数は4,525件となり、  
2024年の5,541件から**1,016件、20%近く減少**しました。

年間合計だけを見ると大きな落ち込みに見えますが、  
第1四半期だけで年間減少数の91.6%に相当しており、  
2025年の減少の大部分が【春先の開業不発】によって説明できることを示しています。

一方で、4月以降の開業件数は前年との差が縮小し、前年を上回った時期もありました。  
つまり、2025年は年間を通じて開業が低迷した年ではなく、

**【本来もっとも開業が集中する春のピークが大きく失速し、その後に持ち直した年】**  
と捉えるのが適切です。

この背景には、

- ◆ 資金調達環境の平常化
- ◆ 人材確保の難しさ
- ◆ 固定客型業態ならではの新店立ち上げの難しさ
- ◆ 面貸し・シェアサロンなど店舗を持たない独立形態の広がり

があると考えられます。

2025年の理美容開業市場は、単純な縮小ではなく、  
**開業時期、開業形態、事業規模の見直しが進んだ一年**だったといえます。

## 開業のかたちは変わりながら、業界は次の成長局面へ

2025年のデータが示したのは、  
開業意欲の低下ではなく、開業を取り巻く環境の変化です。

資金、人材、物件、集客などの条件は厳しさを増していますが、  
一方で理美容サービスへの需要は底堅く、固定客や口コミを基盤とした市場は今も変わらず存在しています。

これからの理美容業界では、店舗を持つ従来型の開業だけでなく、  
小規模開業やシェアサロン、フリーランスなど、  
多様な独立・経営スタイルがさらに広がっていくでしょう。

重要なのは開業件数の増減ではなく、  
変化する環境に合わせて新たな事業モデルを選択することです。

市場環境や開業のあり方は変化を続けていますが、その変化の先には、  
新たな機会や可能性も生まれています。大切なのは、数字の増減だけを見るのではなく、  
その背景にある動きを読み解き、次の一手につなげていくことです。

本レポートが、理美容業界を取り巻く変化を客観的に捉え、  
これからの経営や開業戦略を考える一助となれば幸いです。

Reviewはこれからも、全国の開業動向を継続的に分析・発信し、  
データに基づく知見を通じて、理美容業界の皆さまの意思決定を支援してまいります。

【データ・レポートに関するお問い合わせ】

株式会社Review(リビュー) 広報

担当:五味川

E-mail:gomikawa@re-view.co.jp

<https://re-view.jp/>